

●会期:4月22日(水)~27日(月)

鳥羽 美花 展〈染色〉



「スカーフの向こう側」141×190cm、二曲屏風

京都市立芸術大学大学院修了。風景を染色技法・型染めを基盤に独自の表現を展開。1994年に初めてベトナムを訪れて以来、経済発展と共に失われてゆくベトナムの光景を描いた一連の大作を制作されています。ベトナム政府より「文化功労賞」、国内では「都市文化奨励賞」「京都市芸術新人賞」など数々の賞を受賞。伝統工芸の枠を超え、空間芸術としての染色の可能性を切り拓き、異文化と精神性を取り入れながら繋ぎ紡がれてゆく鳥羽作品の世界観を一堂に展覧いたします。

水野 咲衣花 木工芸展

1996年北海道札幌市生まれ。2015年おといねっふ美術工芸高校卒業。現在は重要無形文化財保持者である須田賢司先生が主催されている「木工藝学林清雅舎」のメンバーとして活動し技術を磨いています。初個展となる会場で素材の美しさと響き合う伝統工芸の技をご高覧ください。



「献保梨小箆筥」
(ケンボナシ、黒柿、シム柿、桐)
W14×D14.6×H18.4cm

5月の予告

- 会期:4月29日(水・祝)~5月4日(月・祝) —
Three senses —しなやかな色彩—〈洋画〉/
丸山祐介・かねおや あつし 二人展〈工芸〉
- 会期:5月6日(水・休)~11日(月) —
狩俣 公介 展〈日本画〉/
藤井 慎介 展〈木工〉
- 会期:5月13日(水)~18日(月) —
奏彩Ⅳ〈洋画〉/
八代 尾西 楽斎 展〈陶芸〉
- 会期:5月20日(水)~25日(月) —
十三代 中村 宗哲 展〈漆芸〉
- 会期:5月27日(水)~6月1日(月) —
野地 美樹子 展〈日本画〉/
橋詰 正英 展〈陶芸〉

ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

横浜高島屋美術画廊のご案内

4月

April 2026



「彩変化花器'20」W43×D22×H12cm 撮影 増尾峰明

●会期:4月8日(水)~13日(月)

人間国宝 藤塚 松星 竹の世界展

◎美術画廊は毎週火曜、会場準備のため閉廊、最終日は通常通り営業いたします。

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

高島屋の美術

高島屋各店美術画廊・
展覧会のご案内



横浜高島屋美術画廊のご案内は
【公式】横浜高島屋美術画廊
のInstagramでも
ご覧いただけます。



●会期:4月1日(水)~6日(月)

松本 祐子 展 — 花信 — 〈日本画〉



「普門寺の白藤」160×340cm、紙本彩色

1981年に京都教育大学美術領域専攻を修了された後、創画会を中心に公募展やグループ展で精力的に作品を発表。5年振りとなる今展は、花の開花を知らせる便りを意味する「花信」と題し、新たな取り組みである絹本での表現と合わせて春から初夏に咲き誇る花々の競演を一堂に展覧いたします。

木越 あい 個展 — ものの芽ほぐるる — 〈硝子〉



「一筆啓上仕り候」φ8×H9cm

1990年多摩美術大学大学院修了。横浜高島屋美術画廊での2回目の個展になります。この季節にふさわしく、空を見上げて春の星座を探したり、水の中に小さな生きものを見つける喜びをガラスの中に表現した作品を展覧いたします。作品それぞれにあるストーリーとの出会いをお楽しみください。

●会期:4月8日(水)~13日(月)

人間国宝 藤塚 松星 竹の世界展

1949年北海道生まれ。その後、神奈川県大磯で育ち、2023年工芸分野では神奈川で唯一の重要無形文化財保持者(人間国宝)として認定された藤塚松星先生。伝統文化としての竹工芸作品の中でも、「彩変化」と名づけられた見る角度によって色彩が異なる独自の作品は「用の美」を超えた芸術性が世界でも高く評価されています。今まで制作された代表的な作品を一堂に展覧いたします。



衝立「翔」W130×H98cm 撮影 増尾峰明

■藤塚松星先生によるギャラリートーク ●4月11日(土) ●午後2時から
※ギャラリートークに関する情報は横浜高島屋ホームページをご確認ください。

●会期:4月8日(水)~13日(月)

秋山 隆 木彫展

先生は、1975年広島県出身。2000年広島市立大学芸術学研究所彫刻専攻を修了後、二科展を中心に個展グループ展にて発表。今展では「自然と人工」をテーマにそれぞれがもつ変化や内面を彫り起こせるよう、動物をモチーフとした木彫表現で有機的な曲線と人工的な直線のコントラストのある作品を一堂に展覧いたします。



「月」H16×W52×D22cm、楠

●会期:4月15日(水)~20日(月)

信楽 古谷 和也 陶展

1976年信楽生まれ。1998年京都府立陶工技術専門学校卒業後、父、古谷道生氏に師事。穴窯で制作される作品は土の赤と自然釉の緑のコントラストが印象的で、さらに近年制作されている信楽混成作品は造形に信楽の土をのせ、土本来が持つ野趣あふれる作品になっています。信楽作品の新たな魅力をどうぞご高覧ください。



「信楽壺」φ33.5×H32cm

矢吹 沙織 展 — キキキ — 〈日本画〉

1998年広島比治山女子短期大学美術科日本画を卒業、さらに、2000年京都芸術短期大学日本画専攻科を卒業。以降、個展・グループ展にて精力的に発表する傍ら、2009年広島酒造ラベル原案制作や2016年には京都宇治田原の正寿院へ花天井画10点奉納するなど幅広く活動しています。今展では、「氣」「黄」「樹」を基軸に春めいた輝く季節を意識した美しい作品の数々を一堂に展覧いたします。



「嬉々」41.0×31.8cm(6号F) 紙本彩色